



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月1日

上場会社名 日本化成株式会社
 コード番号 4007 URL <http://www.nkchemical.co.jp>
 代表者 (役職名) 取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 中村 英輔
 (氏名) 関 信哉

上場取引所 東
 TEL 03-5540-5861

(百万円未満四捨五入)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	17,100	15.3	280	—	487	—	360	—
25年3月期第2四半期	14,837	△4.6	△139	—	5	△99.3	△40	—

(注)包括利益 26年3月期第2四半期 381百万円 (—%) 25年3月期第2四半期 △47百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	3.43	—
25年3月期第2四半期	△0.38	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	自己資本比率	%
26年3月期第2四半期	32,680		11,871		36.3	
25年3月期	34,515		11,700		33.9	

(参考)自己資本 26年3月期第2四半期 11,871百万円 25年3月期 11,700百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,550	8.5	1,220	111.4	1,300	38.0	510	36.4	4.85

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	105,115,800 株	25年3月期	105,115,800 株
26年3月期2Q	29,959 株	25年3月期	29,867 株
26年3月期2Q	105,085,894 株	25年3月期2Q	105,086,850 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

(説明資料) 平成26年3月期 第2四半期決算概要

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、堅調な国内需要に支えられ、引続き緩やかな回復過程を辿る一方、海外経済については、米国が回復基調を維持する中で全体として徐々に持ち直し傾向を示しましたが、新興国経済の成長鈍化、欧州債務問題の今後の展開等、種々の不安要因を抱えるなど、取り巻く諸情勢は、先行き見通し難い状況が継続しました。

このような状況下、当社グループは、諸情勢を踏まえ、本年度、新中期経営計画「NKC-Plan2015」を見直し、新たなアクションプランに沿って、安定的な収益基盤の構築に向け、各種経営諸施策を取進めてまいりました。

こうした中、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高につきましては、当社に関連する需要が、全般的に好調に推移したことから、前年同期比増収となりました。

また、損益につきましては、無機化学品事業の一部が減益となったものの、その他の無機化学品事業及び機能化学品・化成事業が主要顧客の需要回復等により増益となったことから、全体として前年同期比大幅増益となりました。

具体的には、当第2四半期連結累計期間の売上高は17,100百万円（前年同期比15.3%増）、営業利益は280百万円（前年同期は営業損失139百万円）、経常利益は487百万円（前年同期は経常利益5百万円）、四半期純利益は360百万円（前年同期は四半期純損失40百万円）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

(無機化学品事業)

硝酸をはじめとするアンモニア系製品は前年同期並みとなりましたが、液体アンモニアの需要が引き続き堅調であったこと等から、販売数量、売上高とも増加しました。合成石英粉は、前年第4四半期に需要が底入れして以降、適宜回復過程を辿ったこと等により、販売数量、売上高とも前年同期並みとなりました。ディーゼル車脱硝用高品位尿素水（アドブルー）は、市場競争の激化による厳しい状況下、拡販努力等により、販売数量、売上高とも増加しました。電子工業用高純度薬品は、半導体関連分野の需要回復、液晶分野向けの拡販努力等により、販売数量、売上高とも増加しました。

その結果、全体の売上高は8,857百万円（前年同期比22.6%増）となりました。

(機能化学品・化成事業)

タイヤ（ゴム、プラスチック架橋助剤）は、第1四半期に引き続き回復基調で推移したことから、販売数量、売上高とも増加しました。脂肪酸アミドは、厳しい市場環境下、拡販努力等により、販売数量、売上高とも微増となりました。

メタノールは、販売数量は減少したものの、円安及び市況の上昇に伴い、売上高は増加しました。ホルマリン及び木材加工用接着剤は、住宅着工件数増加等により主要顧客の需要が引き続き堅調に推移したこと等により、販売数量、売上高とも増加しました。

その結果、全体の売上高は5,943百万円（前年同期比8.3%増）となりました。

(エンジニアリング事業)

一般プラント工事を中心とした営業努力及び一部検収の前倒し等により、売上高は1,603百万円（前年同期比10.8%増）となりました。

(その他)

貨物運送・荷役事業は、ほぼ前年同期並みで推移しました。有機溶剤等の蒸留・精製業は一部主要顧客の需要回復等により、極めて厳しい状況で推移した前年同期との比較では売上高が増加しました。

その結果、全体の売上高は626百万円（前年同期比4.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末に比し1,835百万円減少し、32,680百万円となりました。これは、主に現金及び預金並びにたな卸資産等が増加したものの、売上債権等が減少したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比し2,006百万円減少し、20,809百万円となりました。これは、主に退職給付引当金等が増加したものの、仕入債務及び有利子負債等が減少したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比し171百万円増加し、11,871百万円となりました。これは、主に四半期純利益等による増加が支払配当金等による減少を上回ったことによるものであります。

この結果、自己資本比率は36.3%（前連結会計年度末は33.9%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、去る平成25年10月23日「業績予想の修正に関するお知らせ」において発表いたしましたとおり、当社に関連する需要が、概ね当初想定以上に推移したこと等から、営業利益、経常利益及び四半期純利益について、平成25年5月10日の業績予想発表時点の数値を上回る結果となりました。

一方、今後の見通しにつきましては、内需の底堅さと海外経済の持ち直し等を背景に、国内景気は緩やかな回復を継続するものと想定されますが、世界経済が様々な不確定要素を抱える中、当社関連需要の回復テンポ、円安に伴う主要原燃料価格の上昇圧力等、諸要因の動向を慎重に見極める必要がありますことから、平成26年3月期の通期連結業績予想につきましては、現時点では平成25年5月10日に発表した内容から変更していません。

当社グループは、前述のとおり本年度、新中期経営計画「NKC-Plan2015」を見直し、新たなアクションプランをスタートさせておりますが、その軌道に沿った歩みをより確実なものとするべく、今後とも各種経営諸施策の実行に心血を注いで参ります。

なお、今後の状況変化に伴い見直しが必要となった場合には、速やかに開示いたします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、従来、建物(附属設備を除く)以外の有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法については定率法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より全ての有形固定資産の減価償却方法を定額法に変更しております。

当社グループは、2013年5月に新中期経営計画「NKC-Plan2015」(2011~2015年度)を見直し、各事業の収益基盤をより強固且つ確実なものとするため経営資源の選択と集中を行い、既存施策の見直し、加速化に加え、新たな事業構造改革施策を取り進めております。

具体的には、より強固で安定的な収益構造を構築すべく、基盤事業である硝酸系事業においてはコスト競争力を強化し、事業の最適化に向けた黒崎工場への生産体制集約化及び運営体制の大幅な見直しを図る等、安定的な収益確保を目指し、また、事業を取り巻く環境が大きく変化し需要の鈍化等が予想される事業については、徹底したコスト削減による収益改善を図るとともに、見直し前の中期経営計画において予定されていた設備投資計画を縮小又は先送りする等、事業環境の変化に対応した諸施策をより確実に実施していくものとなっております。

これら事業環境の変化に対応した新中期経営計画「NKC-Plan2015」(2011~2015年度)の見直しを契機として、生産設備の今後の稼働状況を検討した結果、大型設備投資を縮小・先送りしたこと、また、既存製造製品についてはライフサイクルが長く、主要設備の陳腐化のリスクが低いことから安定的な稼働が見込まれること及び修繕費等の維持コストも稼働状況に応じて平準化して推移すると想定されることから、定額法による費用配分に基づく期間損益計算がより合理的で適切と判断いたしました。

これにより、従来の方と比べて当第2四半期連結累計期間の営業利益は122百万円、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ137百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,382	1,624
受取手形及び売掛金	9,530	7,870
商品及び製品	2,758	3,090
仕掛品	316	1,156
原材料及び貯蔵品	2,031	1,220
その他	2,066	1,333
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	18,082	16,292
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,882	2,861
機械装置及び運搬具（純額）	1,989	1,911
土地	6,632	4,986
建設仮勘定	393	342
その他（純額）	124	174
有形固定資産合計	12,020	10,274
無形固定資産		
その他	56	68
無形固定資産合計	56	68
投資その他の資産		
その他	4,382	6,065
貸倒引当金	△25	△19
投資その他の資産合計	4,357	6,046
固定資産合計	16,433	16,388
資産合計	34,515	32,680

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,098	5,115
短期借入金	10,267	9,197
未払法人税等	29	48
賞与引当金	294	287
災害損失引当金	300	216
その他	2,101	2,218
流動負債合計	19,089	17,081
固定負債		
長期借入金	606	503
退職給付引当金	2,931	3,032
役員退職慰労引当金	74	78
その他	115	115
固定負債合計	3,726	3,728
負債合計	22,815	20,809
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,593	6,593
利益剰余金	5,077	5,227
自己株式	△6	△6
株主資本合計	11,664	11,814
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	36	57
その他の包括利益累計額合計	36	57
純資産合計	11,700	11,871
負債純資産合計	34,515	32,680

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	14,837	17,100
売上原価	12,473	14,356
売上総利益	2,364	2,744
販売費及び一般管理費	2,503	2,464
営業利益又は営業損失(△)	△139	280
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	106	160
持分法による投資利益	33	32
受取賃貸料	33	23
その他	65	47
営業外収益合計	237	262
営業外費用		
支払利息	57	44
その他	36	11
営業外費用合計	93	55
経常利益	5	487
特別利益		
固定資産売却益	81	—
補助金収入	66	—
特別利益合計	147	—
特別損失		
減損損失	314	—
特別損失合計	314	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△162	487
法人税、住民税及び事業税	26	44
法人税等調整額	△148	83
法人税等合計	△122	127
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△40	360
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△40	360

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△40	360
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7	20
持分法適用会社に対する持分相当額	0	1
その他の包括利益合計	△7	21
四半期包括利益	△47	381
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△47	381
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△162	487
減価償却費	603	338
固定資産売却損益(△は益)	△81	—
補助金収入	△66	—
減損損失	314	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△40	△7
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△41	101
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△33	4
事業整理損失引当金の増減額(△は減少)	△0	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	△6
受取利息及び受取配当金	△106	△160
支払利息	57	44
持分法による投資損益(△は益)	△33	△32
固定資産除却損	10	4
売上債権の増減額(△は増加)	480	1,660
たな卸資産の増減額(△は増加)	△892	△361
その他の流動資産の増減額(△は増加)	180	55
仕入債務の増減額(△は減少)	△11	△1,065
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△288	122
その他	3	3
小計	△106	1,187
利息及び配当金の受取額	111	169
補助金の受取額	66	—
利息の支払額	△57	△47
災害損失の支払額	△3	△2
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	87	46
営業活動によるキャッシュ・フロー	98	1,353
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△289	△214
有形固定資産の売却による収入	98	321
無形固定資産の取得による支出	△9	△25
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
短期貸付金の純増減額(△は増加)	0	200
長期前払費用の取得による支出	—	△12
その他	6	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△194	271

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	210	△1,030
長期借入金の返済による支出	△103	△143
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△209	△210
財務活動によるキャッシュ・フロー	△102	△1,383
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△199	242
現金及び現金同等物の期首残高	1,519	1,382
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,320	1,624

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				その他 (百万円) (注)1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円) (注)3
	無機化学品 事業 (百万円)	機能化学 品・化成品 事業 (百万円)	エンジニア リング事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	7,222	5,487	1,447	14,156	602	14,758	79	14,837
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	-	13	116	129	136	265	△ 265	-
計	7,222	5,500	1,563	14,285	738	15,023	△ 186	14,837
セグメント利益 又は損失(△)	86	7	91	184	16	200	△ 339	△ 139

(注)1. 「その他」の区分は、貨物運送・荷役事業、有機溶剤等の蒸留・精製業等であります。

当第2四半期連結累計期間において、「その他」に含まれている「貨物運送・荷役事業」の外部顧客への売上高は573百万円、セグメント利益は40百万円であり、「有機溶剤等の蒸留・精製業」の外部顧客への売上高は29百万円、セグメント損失は35百万円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額

	金額(百万円)
電気及び蒸気の販売による損失(△)	△ 12
その他の調整額※1	△ 260
全社費用※2	△ 67
合計	△ 339

※1. その他の調整額は、主に各報告セグメントに帰属しない全社資産に係るもの及び各報告セグメントに配分していない原価差額であります。

※2. 全社費用は、各報告セグメントに配賦した一般管理費の予定配賦額と実績発生額との差額及び報告セグメントに帰属しない一般管理費、研究開発費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「無機化学品事業」において減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては314百万円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				その他 (百万円) (注)1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円) (注)3
	無機化学品 事業 (百万円)	機能化学 品・化成品 事業 (百万円)	エンジニア リング事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	8,857	5,943	1,603	16,403	626	17,029	71	17,100
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	-	51	13	64	157	221	△ 221	-
計	8,857	5,994	1,616	16,467	783	17,250	△ 150	17,100
セグメント利益	27	173	83	283	30	313	△ 33	280

(注)1. 「その他」の区分は、貨物運送・荷役事業、有機溶剤等の蒸留・精製業であります。

当第2四半期連結累計期間において、「その他」に含まれている「貨物運送・荷役事業」の外部顧客への売上高は572百万円、セグメント利益は41百万円であります。

2. セグメント利益の調整額

	金額(百万円)
電気及び蒸気の販売による利益	0
その他の調整額※1	80
全社費用※2	△ 113
合計	△ 33

※1. その他の調整額は、主に各報告セグメントに帰属しない全社資産に係るもの及び各報告セグメントに配分していない原価差額であります。

※2. 全社費用は、各報告セグメントに配賦した一般管理費の予定配賦額と実績発生額との差額及び報告セグメントに帰属しない一般管理費、研究開発費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

「会計方針の変更」に記載のとおり、当社及び国内連結子会社は、従来、建物(附属設備を除く)以外の有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法については定率法を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より全ての有形固定資産の減価償却方法を定額法に変更しております。

これにより、従来の方と比べて当第2四半期連結累計期間のセグメント利益が、それぞれ「無機化学品事業」で47百万円、「機能化学品・化成品事業」で69百万円、「エンジニアリング事業」で2百万円、「その他」で3百万円、「調整額」で1百万円増加しております。

平成26年3月期 第2四半期決算概要

日本化成株式会社

[単位:百万円]

1. 連結業績

	当第2四半期 連結累計期間 (H25. 4. 1- H25. 9. 30)	前年同四半期 連結累計期間 (H24. 4. 1- H24. 9. 30)	増減	
			金額	率
売上高	17,100	14,837	2,263	15.3%
営業利益	280	△139	419	-
金融収支	116	49	67	※1
その他営業外	59	62	△3	
持分法損益	32	33	△1	
経常利益	487	5	482	-
特別損益	-	△167	167	※2
税引前利益	487	△162	649	-
四半期純利益	360	△40	400	-
1株当り四半期純利益	3円43銭	△0円38銭		

※1 金融収支の主な内訳

	H25/9	H24/9	差
受取配当金	160	106	+54

※2 特別損益主な内訳

	当第2四半期	前年同四半期
固定資産売却益(注1)	-	81
減損損失(注2)	-	△314
補助金収入	-	66
計	-	△167

(注1) 子会社土地の売却益

(注2) 小名浜工場混酸・希硝酸・濃硝酸製造設備

①セグメント別売上高(連結)

	当第2四半期 連結累計期間 (H25. 4. 1- H25. 9. 30)	前年同四半期 連結累計期間 (H24. 4. 1- H24. 9. 30)	増減	
報告セグメント				
無機化学品	8,857	7,222	1,635	硝酸をはじめとするフッ素系製品及び合成石英粉は前年同期並みとなるも、液体フッ素の需要が引き続き堅調であったこと等により販売数量、売上高とも増加し対前年同期比増収
機能化学品・化成品	5,943	5,487	456	ホタルン・木材加工用接着剤の需要が引き続き堅調に推移したこと、タイク(ゴム・プラスチック架橋助剤)が回復基調で推移したこと等により販売数量、売上高とも増加し対前年同期比増収
エンジニアリング	1,603	1,447	156	一般プラント工事を中心とした営業努力及び一部検収の前倒し等により対前年同期比増収
その他	626	602	24	貨物運送・荷役事業はほぼ前年同期並みとなるも、有機溶剤等の蒸留・精製業は一部主要顧客の需要回復等により増収となり、対前年同期比微増
調整額	71	79	△8	上記セグメントに属さない電気・蒸気等のコーポレート部門の売上高を調整額として表示
計	17,100	14,837	2,263	

②セグメント別営業利益(連結)

	当第2四半期 連結累計期間 (H25. 4. 1- H25. 9. 30)	前年同四半期 連結累計期間 (H24. 4. 1- H24. 9. 30)	増減	
報告セグメント				
無機化学品	27	86	△59	液体フッ素及び硝酸をはじめとするフッ素系製品は、円安に伴う主要原料価格上昇及び定期修理期間の一部延長の影響等により減益となり、合成石英粉についても主要顧客の回復傾向にばらつきがみられたこと等により利益幅が減少したため、アドバル、EL薬品は増益となったものの、トールでは対前年同期比減益
機能化学品・化成品	173	7	166	ホタルン・木材加工用接着剤は主要顧客の需要が引き続き堅調に推移したこと、タイク(ゴム・プラスチック架橋助剤)が回復基調で推移したこと等により、対前年同期比増益
エンジニアリング	83	91	△8	一般プラント工事を中心とした営業努力及び一部検収の前倒し等により増収となるも、相対的に利益率の高い受注案件が減少したこと等により対前年同期比微減
その他	30	16	14	貨物運送・荷役事業はほぼ前年同期並みとなるも、有機溶剤等の蒸留・精製業は一部主要顧客の需要回復等により損失が減少し、対前年同期比微増
調整額	△33	△339	306	原価差額及び上記セグメントに属さない電気・蒸気等のコーポレート部門の損益を調整額として表示(含みらいプロジェクト開発費用 H25第2Q △79 H24第2Q △77)
計	280	△139	419	

※平成24年11月1日付の組織変更により、従来「機能化学品・化成品事業」であった電子工業用高純度薬品を「無機化学品事業」に帰属を変更致しました。これに伴い平成24年度第2四半期連結累計期間の数値については上記組織変更を反映したものに組替え表示しております。

2. 連結比較貸借対照表

	当第2四半期 連結会計期間末 (H25. 9. 30)	前連結会計 年度末 (H25. 3. 31)	増減		当第2四半期 連結会計期間末 (H25. 9. 30)	前連結会計 年度末 (H25. 3. 31)	増減
現預金	1,624	1,382	242	有利子負債	9,700	10,873	△1,173
たな卸資産	5,466	5,105	361	営業債務他 ※3	11,109	11,942	△833
営業債権他 ※1	9,202	11,595	△2,393	株主資本	11,814	11,664	150
固定資産(有形・無形)※2	10,342	12,076	△1,734	その他の包括利益累計額	57	36	21
投融資等 ※2	6,046	4,357	1,689				
資産合計	32,680	34,515	△1,835	負債・純資産合計	32,680	34,515	△1,835

(注) 自己資本=純資産-少数株主持分

D/Eレオ=有利子負債/自己資本

自己資本	11,871	11,700	171
自己資本比率	36.3%	33.9%	2.4%
有利子負債	9,700	10,873	△1,173
D/Eレオ	0.82	0.93	△0.11

※1 増減内訳: 売上債権 △1,660、短期貸付金 △200、その他流動資産等 △533

※2 増減内訳: 事務所用賃貸土地を投資不動産へ振替 1,654

※3 増減内訳: 仕入債務 △983、その他流動負債等 +150

3. 連結キャッシュ・フロー

	当第2四半期 連結累計期間 (H25. 4. 1- H25. 9. 30)	
営業活動によるCF	1,353	売上債権の減少額 1,660、税前利益 487、減価償却費 338、仕入債務の減少額 △1,065、その他 △67
投資活動によるCF	271	有形固定資産の売却による収入 321、設備投資 △239、短期貸付金の減少額等 189
フリーキャッシュ・フロー	1,624	
財務活動によるCF	△1,383	借入金の返済 △1,173、配当金の支払 △210
現金及び現金同等物に係る換算額	1	
現金及び現金同等物の増減	242	

(参考)

前年同四半期 連結累計期間 (H24. 4. 1- H24. 9. 30)
98
△194
△96
△102
△1
△199

4. 連結通期業績予想（平成25年5月10日発表）

	26年3月期 予想	25年3月期 実績	増減	
			金額	率
売上高	36,550	33,675	2,875	8.5%
営業利益	1,220	577	643	111.4%
経常利益	1,300	942	358	38.0%
特別損益	△450	△377	△73	
税引前利益	850	565	285	50.4%
当期純利益	510	374	136	36.4%
1株当たり当期純利益	4円85銭	3円56銭		
1株当たり配当金(期末のみ)	2円	2円		

①セグメント別売上高

		26年3月期 予想	25年3月期 実績	増減	
報告セグメント	無機化学品	18,000	16,716	1,284	アノミア系製品の販売数量増等により増収
	機能化学品・化成品	12,900	11,013	1,887	ホリマリン・木材加工用接着剤等の販売数量増により増収
	エンジニアリング	4,200	4,595	△395	一般プラント工事受注減等により減収
その他		1,300	1,215	85	貨物運送・荷役事業の取扱量増等により増収
調整額		150	136	14	上記セグメントに属さないコーポレート部門の売上高を調整額として表示
計		36,550	33,675	2,875	

②セグメント別営業利益

		26年3月期 予想	25年3月期 実績	増減	
報告セグメント	無機化学品	650	349	301	アノミア系製品の販売数量増等により増益
	機能化学品・化成品	470	48	422	ホリマリン・木材加工用接着剤等の販売数量増により増益
	エンジニアリング	140	411	△271	一般プラント工事受注減等により減益
その他		30	3	27	貨物運送・荷役事業の取扱量増等により増益
調整額		△70	△234	164	上記セグメントに属さないコーポレート部門の損益を調整額として表示
計		1,220	577	643	